THE Y'S MEN'S CLUB OF AIZU
会津ワイズメンズクラブ
CHARTERED ON FEB.1993

2018～2019 年度主題

国　際　会　長　Moon Sang Bong(韓国)　「私たちは変えられる」
アジア地域会長　田中博之（東日本区）　「アクション」
東日本区　理事　宮内友弥（東京武蔵野多摩）「為せば成る」
北 東 部　部長　涌澤　博（仙台青葉城）「チャンス到来　我ら北東部から世界へ」
会津クラブ会長　青山孝男　「力の限り　この地の塩として！」

＜№285 会津通信＞
2019 年 5 月 14 日発行

会　長　青山孝男
副会長　髙橋眞美
書　記　髙橋真人
会　計　髙橋真人

◇５月の聖句 ◇

あなたがたも聞いているとおり、昔の人は「殺すな。人を殺したものは裁きを受ける」と命じられている。

マタイ福音書５章 ２１節

５月例会

日時；2019 年 5 月 14 日（火）19：00～
場所：若松栄町教会
司会；髙橋　真人メン

1．開 会 点 鐘　　会　長
2．ワイズソング　　一　同
3．会 長 挨 拶　　会　長
4．連 絡　報 告
5,聖 句 朗 読
6．食 前 感 謝
7．歓　　談　強調月間
EF/JEF　切手整理
8．Happy Birthday! Happy Anniversary!
9,閉 会 点 鐘　　会　長

＜4 月例会出席状況＞
在　籍　者　５名　　ゲスト０名
出　席　者　５名
＊例会出席率 100%

あ か べ こ　　5,000 円
18-19 年度合計　　18,000 円

《例会》
毎月第２火曜日　19：00～21：00
若松栄町教会　（☎0242-27-3944）

老いること・家族・介護・終活　強い義務感を持とう　義務はす

髙橋　眞美ｳｨﾒﾝ

詩人の小森香子さんは人の老いゆく姿をこの様に詠っています。

「人は 二足歩行の動物 だから 歩けなくなったと自覚する時 恐れをいだく八十歳になった年の半ばに 二度ころんだ わずかな段差や 人混みのふれあいあとで考えてみれば ほんの三センチほど 足をあげていたら身をかわしていたら人は 言葉をあやつる動物 だからふっと 言おうとした言葉につまったり ふっとその人の名が 浮かんでこないと その意外さに おどろき 恐れる どうして なぜ だれっだけ あの人 いつどこで出会った人だったろう たしか…人は いつまでも 若くはないし病みもする いつか山に登れなくなり お茶にむせたり 隣の部屋に来て わたしは何をしに来たかと いくら考えても思い出せず 元へ戻ってみたり それが年をとる ということならば いっそ 開きなおって受け入れよう その季節を…」これは「紅茶」の詩の一節です。そして、受け入れることは自覚することだと続きます。この詩のように、私も老いを素直に受け入れた時に自分自身を労わり、人の老いにも心優しくなれるのではなかろうかと熱い美味しい紅茶を淹れて一息つく自分の姿を想像するのでした。

しかし、長寿社会の現代では、年老いていくことは「介護」と切り離して考えることはできません。八十代を生きる私たち夫婦も、いま、介護する者、介護される

者として日々過ごしています。昨年春に夫が退院し自宅での介護生活が始まった時、今までの夫らしくないしく生きるとは？個人の尊厳はどこに？と私は自分に問い続けていました。そのような中で、以前、義父母や実父母の介護した私の体験のいずれにも比較にならない程 、今の夫の介護は楽だということに気が付いたのでした。それは、お互いの歩んで来た道のり、ものがたり(生きかた)を知っていること、そしてそれを共有してきたこと(全てとは思わないのですが)だと思うのです。更にこの気付きは介護する者、介護される者という間柄ではなく一緒に生きる術を互いに身につけていけるのではないかと思うのです、少し時間がかかるかもしれませんが。しかしこれには多くの人々の手助けが欠かせませんし、また甘えではない私たちの意思表示も大切だと思っています。もう一つ大切な事があります。それは「介護」を家庭、家族だけの責務と思い込まないことです。この事でとても気になっている事があります。それは自民党が 2012 年に作成した「日本国憲法改正草案」は第 24 条に、新しく「家族は、社会の自然かつ基礎的な単位として、尊重される。家族は、互いに助け合わなければならない」との 1 項を付け加えることを提案していることです。そして、改憲草案前文第 3 段落に「……(略)つ家族や社会全体が互いに助け合って国家を形成する」とあります。個人が尊重されるのでなく、家族が尊重され、国家を形成する為に家族が互いに助け合うなんておかしいとは思いませんか？介護は家庭における個人の尊厳にたって為されるものだと私は思っています。その具現化は、私たち一人ひとりが「健康で文化的な最低限度の生活」を営む「権利」があることを介護生活の只中で表明し続けることなのです。これが私の終活なのです。終活ー「人生の終わりについて考える活動」でなく、老いを自覚し、自分の人生の終わりも見据えつつ未来に向かって希望を拡げて生きていきたいと願っています

(次回は髙橋京子さん)

5 月号報告(東日本区報より抜粋)

理事メッセージ

宮内友弥（東京武蔵野多摩）

ワイズメンズクラブ国際協会
第 22 回　東日本区大会

日時：2019 年６月１日(土)・２日(日)
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

登録費：メンバー、メネット　13,000 円
ユース（ユースの会参加者で 15～30 歳）　7,000 円
コメット（中学生以下）　5,000 円
講演会のみ　　無料
宿泊費：2,300～4,000 円

（オリンピックセンターＡ棟、Ｄ棟利用）
※その他、詳細につきましてはパンフレット・申込書をご確認ください。

テーマ
「つなごう　平和への　道しるべ」

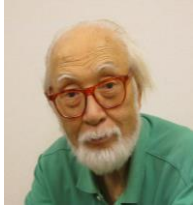
記念講演
「もうひとつのヒロシマ、灯籠流し」

オバマ前大統領広島訪問の際に抱擁を交わした歴史研究家森 重昭さんをお迎えし、原爆の犠牲となったアメリカ兵の遺族との交流を追ったドキュメンタリーフィルム「Paper Lanterns(灯籠流し)」を上映します。国と国との間に起った戦争という悲劇を、人はどのように乗り越えることができるかという大きな問いに向き合うものです。ご自身も被爆者であり今も国連等で「原爆犠牲者に国境は関係ない」との信念から、講演を続けておられる森さんにお話いただき、平和について思いを馳せ、大いに語る時としましょう。
ワイズとその仲間の皆様、盛上げるのはあなたです。交通至便の都心で開催されます第２２回東日本区大会に奮ってご参加くださることを心よりお待ちしております。

会　津　だ　よ　り

仙台起点の我が人生の筋道

高橋　カメン



父・八郎はアンネ S. ブゼルのバイブルクラスでの出会いにより、1928 年吾妻千賀と結婚。吾妻千賀は仙台市北六番町に生まれ、尚絅女学校出身。現・仙台ホサナ教会在籍中「アカの八郎との結婚を理由に破門除籍され、敗戦後満州から引揚後、日本キリスト教団木更津教会で復帰。岩波西洋人名事典：「アンネ S. ブゼルはアメリカのバプテスト外国婦人伝道会社の婦人宣教師。明治２５年来日し、生涯を仙台の尚絅女学校と東北地方の伝道に献身。バイブルクラスを通して仙台の第二高等学校の学生等に感化を与え、また、吉野作造、内ケ崎作三郎、島地雷鳥等はブゼルの感化で受洗した」。
◎〇◎以下　父・高橋八郎談　会津短期大学教授内海健寿編「私の歩んできた道」より引用。
1947 年社会党設立後初のクリスチャン首相となった片山 哲の「回顧と展望」から「当時の二高には、一方に土井晩翠、他方には栗原基を中心として宗教的なグループがあり、尚絅女学校長ミスブゼルの英語のバイブルクラスに毎週土曜の夜集まった」。

(以下次号へ)

★　今後の予定★
6 月例会　6 月 11 日
ユニークダンス総会